

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 3 日現在

機関番号：33303

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2009～2013

課題番号：21390599

研究課題名(和文) うつ病者の自殺予防に関する治療的ナラティブアプローチの開発

研究課題名(英文) Development of narrative approach for depression suicidal behavior patients

研究代表者

長谷川 雅美 (HASEGAWA, Masami)

金沢医科大学・看護学部・教授

研究者番号：50293808

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,500,000円、(間接経費) 3,750,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、日本とオーストラリアで実施している在宅うつ病者のナラティブアプローチの治療的効果を検証し、自殺予防に繋げる有効で実践的なアプローチの開発を目指す。ナラティブアプローチによる数回のセッションを受け、うつ病者は危機状況のセルフケアができ固執していた自殺念慮が消失した。しかし8名は未だ自殺念慮の不安があった。そこでオーストラリアで実践している感情調整療法(EMT)がうつ病による自殺念慮に効果的であることがわかり、今後EMTとナラティブアプローチを融合した技法を試みる必要性があると示唆された。この研究経過及び成果を国内外の学会で発表した。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to clarify the suicide prevention effect for the depression people by narrative approach. This study was analyzed by qualitative method and improved to get the power of life skills and coping strategies self-care at crisis of the subject. And they became free from self-reproach and persecution complex and suicidal thought after the sessions. But 8 were keep confliction, anxiety and repeated suicidal thought still now. It means the necessity to continue the psychiatric treatment, both medications and try to consultations. We will try to use narrative approach with Emotion Modulation Therapy (EMT) from next study.

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・地域・老年看護学

キーワード：治療的アプローチ ナラティブアプローチ 在宅うつ病者 自殺予防

1. 研究開始当初の背景

わが国における自殺者が年間 3 万人を超えていることが政府でも重要視され、中でもうつ症状を伴う件数が多く、様々な対策が行政でも取り組まれているが、なかなか効果的な方策に繋がっていない現状である。医療ではうつ病の対応として、これまで薬物療法を中心として治療を進めてきたが、それに加えて様々な精神療法を試みることでうつ病への相乗効果が期待できることが内外の論文で示されている。特に薬物療法と認知行動療法を中心とした精神療法との併用において、その効果が検証されている。

2. 研究の目的

本研究は、日本とオーストラリアで実施している在宅うつ病者のナラティブアプローチの治療的効果を検証し、自殺予防に繋げる有効で実践的なアプローチの開発を目指す。看護師によるうつ病者の自殺予防に関する治療的介入方法を開発することで、我が国のうつ病者のみならず精神障害者の自殺予防に繋がりたいと願っている。

3. 研究の方法

(1) 研究の準備状況

日本での検証をするために、研究代表者が担当する大学病院のメンタルヘルス外来に通院中の被験者の同意を得て、コンサルテーションした内容を録音し、データ収集を行った。一方、オーストラリア Griffith 大学自殺予防研究所との研究協力体制を作るため、研究代表者は日本で実施するデータ収集方法とナラティブアプローチに関する実施方法を説明するため、オーストラリアで研究打ち合わせを行い、双方の疑問点や統一した見解を得るた

めの会議を行った。オーストラリアでの実施方法については、自殺予防研究所の Angello 教授と、日本人研究者で同研究所研究員の井出氏を中心とした研究協力体制づくりができた。研究内容の違いとして、オーストラリアでは行動療法を修正した感情調整療法 (EMT) を主体とすることになったが、研究代表者のナラティブアプローチとほぼ同様の目的と手順であったため、それを無理に調整することなくそのまま双方でそれぞれうつ病者にかかわることで合意した。

(2) 研究方法

研究対象：うつ病治療中の外来受診者（本研究では「うつ病者」と表現する）

研究場所：金沢大学病院総合診療部外来、Griffith 大学自殺予防研究所 (AISRAP)

研究方法：うつ病者の「語り」に潜む自殺念慮につながる認知的問題を抽出する。

データ抽出方法：ナラティブアプローチを用いた非構造化面接

分析方法：面接開始前後に対象者から気分の変化および効果についてアンケート調査をする。面接内容をカテゴリー化して研究者間で解釈・分析するとともにその効果についてアンケート内容を分析して効果を確認する。

(3) 研究計画

平成 21 年度

服薬治療中の在宅うつ病者への「語り」に潜む自殺念慮改善のプロセスの検証

オーストラリアの行動療法でのナラティブアプローチの治療的効果について検証する

平成 22 年度

行動療法アプローチと認知療法アプローチについて治療効果を比較検討する

行動療法と認知療法によるナラティブアプ

ローチが確立できる可能性について検討する
平成 23 年度

うつ病者の自殺予防に関する有効な治療的ア
プローチの開発と介入プログラムの策定

平成 24 年度

研究まとめ、学会発表

4. 研究成果

倫理的配慮による研究参加者 20 名の自殺
念慮に関する結果を分析したところ、各参加
者による認知の能力の差や症状の差から、介
入回数にばらつきが見られた。そこで、オ
ーストラリア研究チームと検討した結果、対
象者から表出された症状による回復プロセスを
3 期に分け、各時期の特徴を抽出した。

第1 期：さまざまなうつ症状、怒り、失望、こ
だわりが強く、誤った考えと行動化による自
殺念慮、自殺企図を起こすことが想定される
時期

第2 期：自分の行動に自責感を生じつつ、
こだわりが強いことを自覚していても、改善
されていない時期、

自己洞察と葛藤が生じ、最も不安定で感
情の変化が生じやすいが、次のステップ
に移行する重要な時期

第3 期：自分のこだわりをチェックし、こだわ
りが自分にとって有害であることを理解し、
大切なこと、必要なことにエネルギーを注ぐ
ことができる時期

今後は、わが国においても EMT を導入した看
護師による治療的介入をうつ病者に実施す
るかを検討することが課題となった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 6 件)

Tanaka K, Hasegawa M, Nagata K, Kawamura K, Research on changes in the discourses of the depressed elderly through nursing practice based on a narrative approach, 査読有、Journal of Tsuruma Health Science Society, 36(2)、2012、35-48

大江真人、長谷川雅美、セルフヘルプグル
ープに参加しているうつ病者の体験、日本精
神保健看護学会誌、査読有、21 (2)、2012、
11 - 20

田中浩二、長谷川雅美、うつ病を抱えなが
ら老いを生きる高齢者の体験、日本看護科学
会誌、査読有、32 (3)、2012、53 - 62

長谷川雅美、女がうつになるとき、アクタ
ス、北國新聞、査読有、2012、80-93

長谷川雅美、メンタル看護相談外来での治
療的效果を求めて、日本精神保健看護学会誌、
査読有、20 (2)、2011、68 - 72

長谷川雅美、看護職に対するうつ病教育の
現状、査読有、Depression Frontier 8(1)、
2010、89-93

〔学会発表〕(計 10 件)

長田恭子、金澤千春、河村一海、長谷川雅
美、再発を繰り返すうつ病者の家族の関わり、
第 9 回日本うつ病学会、2012 年 7 月 27 日-28
日、東京(京王プラザホテル)

長田恭子、長谷川雅美、自殺企図後のうつ
病者の企図前・後における心理 ナラティ
ヴ・アプローチによる 語りから、第 9 回日
本うつ病学会、2012 年 7 月 27 日-28 日、東京
(京王プラザホテル)

Hasegawa M, Angelo De Gioannis, A New
Psychiatric Intervention for depression
and suicidal behavior patients with
Emotion Modulation Therapy, ACMHN 37th
International Conference, Oct5-7 2011,

Gold Coast (Outrigger Suffers Paradise Hotel), Australia

Hasegawa M, Narrative Approach for Suicide Prevention of People with Depression, 22nd STTI Congress and 2nd WANS Conference, July11-14 2011, Cancun (Moon Place Golf & Spa Resort), Mexico

長谷川雅美、ナラティブアプローチによる双極性障害患者への治療的介入、第8回日本うつ病学会総会シンポジウム、2011年7月1日-2日、大阪(大阪国際交流センター)

長田恭子、長谷川雅美、自殺企図歴のあるうつ病患者へのナラティブアプローチ 回復を実感できた1例、第8回日本うつ病学会総会、2011年7月1日-2日、大阪(大阪国際交流センター)

長谷川雅美、他6名、うつ病者家族と統合失調症者家族が経験する困難な出来事の類似と相違、第8回日本うつ病学会総会、2011年7月1日-2日、大阪(大阪国際交流センター)

長谷川雅美、メンタル看護相談外来での治療的効果を求めて、第21回日本精神保健看護学会学術集会シンポジウム、2011年6月18日-19日、名古屋(ウインクあいち)

Oe M, Hasegawa M, A meaning to participate in Self Help Group for depression patients, 14th East Asian Fortune of Nursing Scholars, Feb11-12, 2011, Seoul, (Seoul Olympic Parktel), Korea

Tanaka K, Hasegawa M, The life world of the long term hospitalized psychiatric patient, 14th East Asian Fortune of Nursing Scholars, Feb11-12, 2011, Seoul (Seoul Olympic Parktel), Korea

(1)研究代表者

長谷川 雅美 (HASEGAWA, Masami)

金沢医科大学・看護学部・教授

研究者番号：50293808

(2)研究分担者

河村 一海 (KAWAMURA, Kazumi)

金沢大学・保健学系・准教授

研究者番号：50251963

長田 恭子 (NAGATA, Kyoko)

金沢大学・保健学系・助教

研究者番号：60345634

小泉 順二 (KOIZUMI, Junji)

金沢大学・附属病院・教授

研究者番号：20161846

(平成21年度～平成22年度)

6. 研究組織